

第3章 基本的な方針及び目標

I 朝霞市の公共交通の課題

本市の上位・関連計画、人口動向や公共交通の現状等及びアンケート調査による公共交通利用者のニーズを踏まえ、本市における公共交通の課題を以下のように整理する。

第1次計画の 目標達成状況	現状	課題の設定に向けた視点	公共交通の課題
評価指標 1 公共交通空白地区の 改善 実施中	公共交通を取り巻く社会情勢の変化 ・ 2024 年問題（運転手不足の深刻化） ・ コロナ禍によるライフスタイルの変化、カーボンニュートラル、DX の進展	運転手不足 環境負荷の増大	①持続可能な地域公共交通の確保 ■将来に亘って、持続可能な地域の公共交通が求められる ■人口構造等の変化に伴った、弾力的な交通網の形成
評価指標 2 公共交通の利用促進 達成	朝霞市の状況の変化 ・ 立地適正化計画の策定、駅周辺のまちづくりの取り組み ・ 朝霞台駅のバリアフリー※整備、北朝霞駅西口ロータリーの改修 ・ 高齢化の進行、生産年齢人口の減少 ・ 公共交通利用者の減少、バスのサービス水準の低下 ・ 市内循環バス内間木線の上内間木地区乗り入れ、公共交通空白地区の改善に向けた新たな公共交通の実証運行開始 ・ 公共交通、移動支援にかかる公的負担の増大 ・ 一部を除いた国道・県道の交通量、混雑度の改善 ・ シェアサイクルの利用拡大	立地適正化計画 駅周辺の将来像 公共交通利用者の減少 バスのサービス水準 公共交通に関する公的負担	②公共交通空白地区への対応 ■自動車がなくとも外出しやすくなる支援が求められる ■バス停や鉄道駅等まで不便なく行き来できるネットワーク形成
評価指標 3 公共交通に対する満足度の向上 未達成	市内循環バスの利用状況 ・ 往復での利用が増加、他の交通手段との乗り換えが減少 ・ 利用目的に大きな変化なし ・ アンケート結果では、最寄りバス停から目的地までの定時性が低下 ・ バスの運行情報の発信、IC カードの購入・チャージの簡便化へのニーズが向上 ・ 市内循環バスと路線バスが一体となった「バスマップ&時刻表」の認知度が低い ・ 市内循環バスが廃止となった場合に、代替手段のない人が1割程度存在	市内循環バスの定時性 市内循環バスの代替交通手段 公共交通の運行情報の発信	③移動実態やニーズに応じた地域公共交通体系の充実 ■多様な市民ニーズを踏まえた交通体系が求められる
評価指標 4 路線バスの利用促進 達成	市民アンケートにおける公共交通の利用実態、移動ニーズの変化 ・ 外出頻度に大きな変化はない ・ 高齢になるほど最寄りバス停まで無理なく歩ける人が減少 ・ 自動車がないと移動が不便なため、運転免許の返納を考えられない高齢者 ・ バスの運行情報の発信へのニーズが増大	バス停まで歩くのが困難な高齢者 移動が不便になるため免許返納できない高齢者の存在 公共交通の運行情報の発信（再掲）	④公共交通の利用環境向上 ■交通結節点の乗り換え環境の向上、バリアフリー化が求められる ■バス停環境の改善が求められる ■運行情報の発信の強化
評価指標 5 市内循環バスの利用促進 達成	公共交通の運行環境 ・ バス・タクシーで運転手不足、将来の担い手の不在 ・ バスの休憩場所の確保に対する要望 ・ バス路線上の一部に混雑箇所、危険箇所が存在	運転手不足（再掲） 効率的な運転手の休憩・待機場所 バス路線上の危険箇所・渋滞箇所	⑤運転手不足への対応 ■バス・タクシー等の深刻な担い手不足の解消が求められる
評価指標 6 市内循環バスの利用促進（収支率の増加） 達成			⑥まちの拠点の強化 ■コンパクト・プラス・ネットワークなまちづくりの推進 ■駅周辺の将来像の実現に向けた取り組みが求められる
評価指標 7 バスの利用環境の改善 達成			⑦高齢者等の移動支援の効果的な実施 ■バス停まで歩くのが困難な高齢者の移動支援が求められる ■公的負担の増大への対応
評価指標 8 シェアサイクルの利用促進 未達成			

第1次計画において設定した課題  
(継続する課題)

重点的に取り組む課題  
(新たに追加する課題)

## 2 目指すべき地域公共交通体系

計画の基本的な方針及び目標を踏まえ、本市の目指すべき地域公共交通体系を次のように設定する。既存の交通手段の利便性を維持・向上しながら、新たな交通手段を導入し、各交通手段が連携して、きめ細かな運行サービスを提供する地域公共交通体系を構築する。

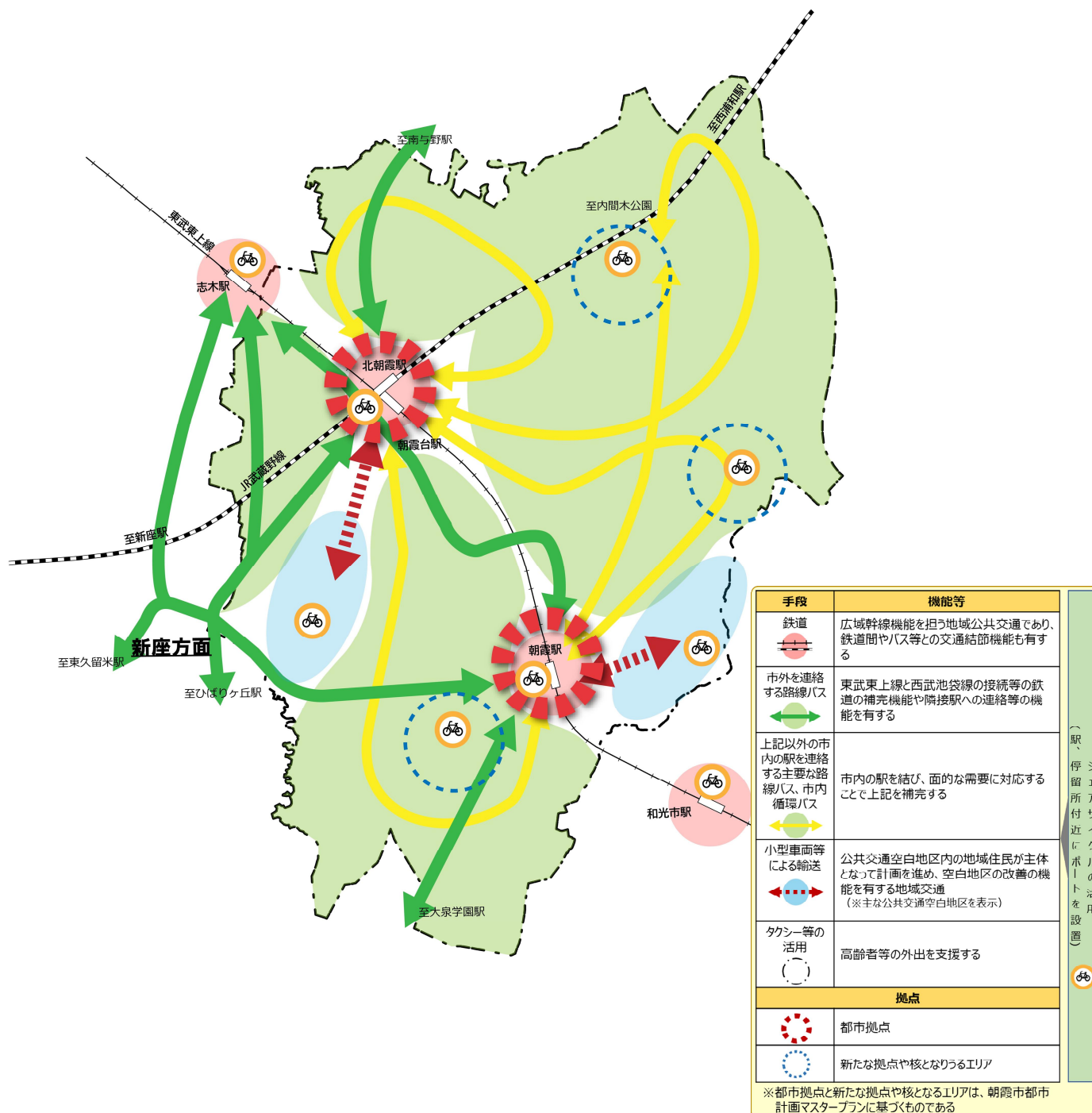


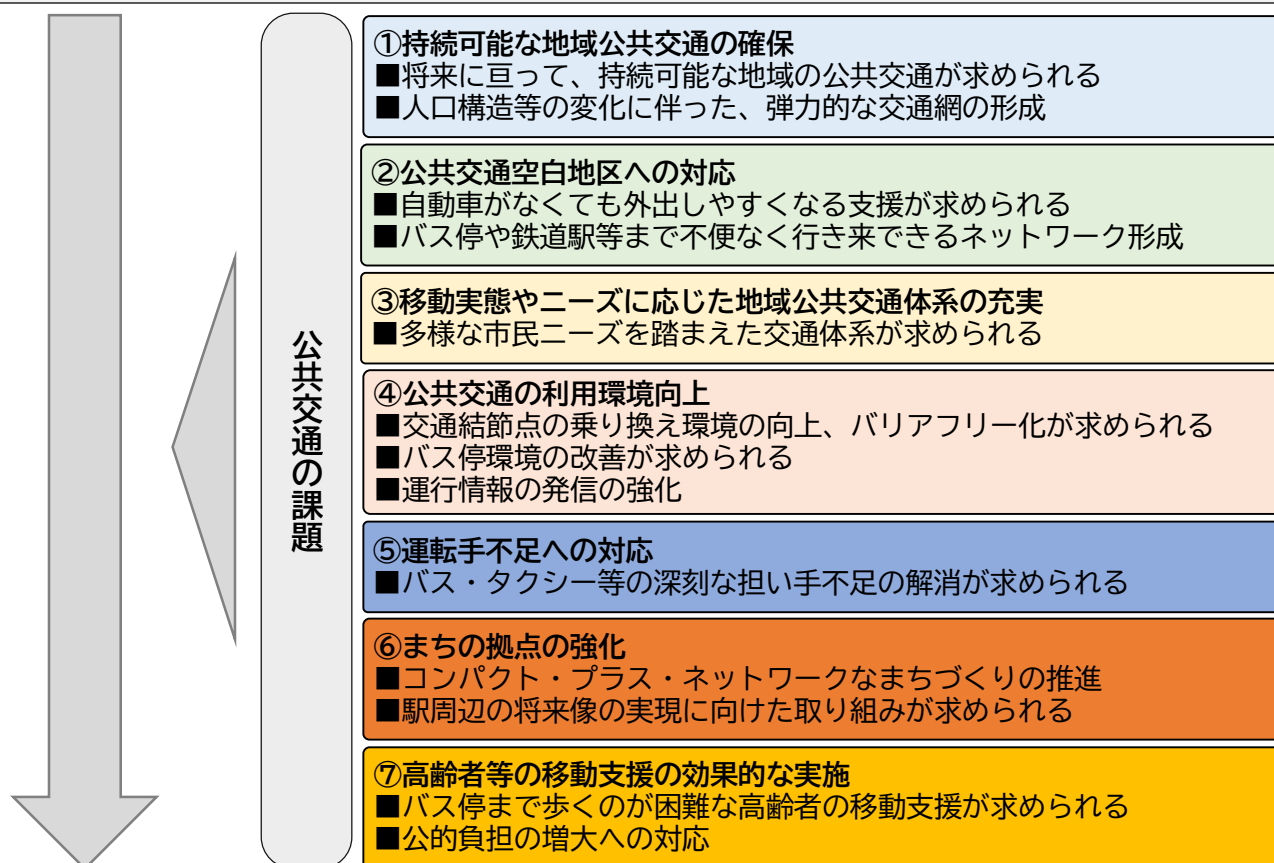
図 9 目指すべき地域公共交通体系

### 3 基本的な方針及び計画目標

上位・関連計画等を踏まえ、計画の基本的な方針を以下のように設定する。また、基本的な方針及び地域公共交通の課題を踏まえ、計画の目標を設定する。

#### 基本的な方針

～みんなで守る 快適な暮らしを支える 地域公共交通～  
“誰もが誇れる 暮らしつづけたいまち 朝霞”



#### 【計画目標Ⅰ】

##### だれもが快適に移動できる地域公共交通体系の実現

- ・買い物や通院、通勤、通学など日常生活の移動を支える便利で快適な交通ネットワークの形成
- ・公共交通空白地区や、バス停まで歩くのが難しい高齢者等に対応した公共交通体系の構築
- ・まちづくりと連動した駅周辺の利便性向上、ウォーカブル化の実現

#### 【計画目標Ⅱ】

##### 市民・行政・交通事業者等と一体となった持続可能な地域公共交通の実現

- ・公共交通を維持、発展させていくためには、行政だけの取り組みでは限界があるため、市民や交通事業者等と一体となって「守り、支え、育てる」持続可能な公共交通の仕組みの構築
- ・低炭素社会の実現に資する環境共生型の公共交通ネットワークの構築